



東小学校だより

木 洩 れ 陽

令和3年8月15日 No.5

文責 校長 瀨砂一徹

早いもので、夏休みも残り半分となりました。子どもたちは毎日をどのように過ごしているのでしょうか。普段できないことに挑戦してほしいと思います。

さて、この夏、本校においても水泳指導を行いました。数多くの保護者の皆様に見守られながら、子どもたちは1年ぶりの水泳を楽しみました。コロナ禍の下での水泳指導ということで、できる限り密を避け、感染予防を行いながらの学習となりました。子どもたちにとって貴重な体験となったのではないかと思います。見守りのご協力、誠にありがとうございました。

【「電子画面」を見ない時間」を大切にする】

今を生きる子どもたちは、日常生活の中で、一体どれくらいの“電子画面”を見ているのでしょうか。

今年から学校で本格的に使い始めた《タブレット》。魅力的な番組が一日放映されている《テレビ画面》。様々な機能がついた《スマートフォン》。子どもたちを虜にする《各種ゲーム機器》。街角に設置されている《電光掲示板》も、車や様々な道具の《電子メーター》もそうでしょう。

私達の生活は、気がつけば“電子画面”にとり囲まれてしまっていると言えます。この状況はさらに続いていくはずです。先日、“1歳児が見ていたスマートフォンを保護者が取り上げたところ、しばらく泣き止まなかった”という話を聞きました。この話が事実ならば、我々大人はかなりの覚悟を持って“電子画面”とつきあっていかねばなりません。便利さ、面白さ等の裏側に潜む影の部分は、子どもには推察し辛いからです。“電子画面”を見ない時間をつくる重要性を強く感じています。

入道雲を見上げて・・・

先日、運動場から夏の空を臨みました。真っ青な空の中に、刻一刻と形を変える入道雲がそびえていました。入道雲が視界に入るためには、数十km離れていることが必要とか。程よい雨をもたらしてくれるといいのですが…。

蟻の道 雲の峰より つづきけん

小林一茶

